

第8回 厚木看護専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2023年6月1日(木)

15:55～16:55

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 委員出席者（11人）

- (1) 井上 直樹（社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団 事務局長）
- (2) 渡辺 美加子（神奈川リハビリテーション病院 副病院長【患者支援・看護担当】）
- (3) 郡山 美恵子（厚木市立病院 副院長兼看護部長）
- (4) 佐藤 裕子（愛光病院 看護科長）
- (5) 佐久間 謙一（厚木看護専門学校 同窓会長）
- (6) 益井 明子（厚木看護専門学校 講師）
- (7) 風間 徹（厚木市松枝地区 自治会長）
- (8) 柚原 知子（厚木看護専門学校3年生 保護者）
- (9) 廣田 仁美（厚木看護専門学校2年生 保護者）
- (10) 杉山 優衣（厚木看護専門学校2年生 学生自治会長）
- (11) 丸田 真織（厚木看護専門学校1年生 学生自治会副会長）

2 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 武藤和恵、 副学校長 五十嵐一美、 看護学科長 島田真由美、
総務課長 茂木憲明、 看護学科総括主査 持木香代、
（オブザーバー参加 看護学科総括主査 高橋隆子）

3 議題

- (1) 報告
 - ア 自己点検・自己評価 2022年度の結果と取り組み
 - イ 2022年度 明日の厚木看護専門学校を考える会 アンケート結果
 - ウ 2023年4月新入学生へのアンケート結果
 - エ 当校のICT整備状況
- (2) 報告に関する質疑応答、意見交換
- (3) 配付資料
 - ア 2024年度入学生用 スクールガイダンス
 - イ 2022年度 自己点検・自己評価報告書
 - ウ 2022年度 明日の厚木看護専門学校を考えるアンケート結果
 - エ 2023年4月新入学生へのアンケート結果
 - オ 学校関係者評価委員会名簿
 - カ 学校関係者評価委員会規程
 - キ 学校関係者評価委員会座席表

4 内容等

【進行：五十嵐副学校長】

配付資料の確認、委員紹介を行った。

【武藤学校長挨拶】

新型コロナウイルス感染症は、5類に移行し、学内の取扱いは平時に戻した。マスク着用は任意としているが、マスクを外す学生は少ない。病院はまだ濃厚接触者の取扱いを継続する厳しい状況下であり、当校でも臨地実習を見据え、実習室ではマスク着用を義務付けている。

2023年3月には、39回生が卒業し、国家試験合格率は97.7%であった。3年連続の合格率100%は叶わず残念であったが、合格率の平均は超えることができた。就職率は県内100%、県央地区80%、当校実習施設96%であった。

2023年4月に42回生（新1年生）が79人入学した。80人定員を1人下回ったことは遺憾であり、学生確保にさらなる努力を行う。ホームページを毎週更新しており、応募者の増につなげて参りたい。2年生は84人、3年生は85人の計248人である。1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムと今年1年間は混在することとなる。

6月24日(土)に第30回目を迎える「たまご祭」は通常時の開催で行う予定である。

なお、放送大学と当校の両方の学修を行うダブルスクール制度は、今年4月入学の42回生からスタートしているところで、現在、6人の学生が看護学士を目指し学修を進めている。

本日は、コロナ禍のなか当校が取り組んできたICT教育の実際も紹介する。

【持木総括主査】

配付資料に基づき、報告事項のア、イ、ウ、エを説明した。

エの当校のICT整備状況は、スクリーン実写のうえプレゼンテーションした。

【五十嵐副学校長】

3の(2)報告に関する質疑応答、意見交換に入る前に、本日欠席されている榊委員から事前回答頂いた内容を申し上げる。

『2022年度 自己点検・自己評価報告書 の資料を拝見し、前年度より評価が概ね向上しており素晴らしいと思いました。』

資料P1の中段の「7. 学生の受入れ募集②「学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」の項目についてです。貴校ホームページ「厚看Style」などに、卒業生が厚木看護専門学校での学修成果について述べる欄を追加する等の方法もあるかもしれないと思います。』

以上のご意見をいただいた。それでは、質疑応答、意見交換のご意見を賜りたい。

【風間委員】

自己点検・自己評価報告書は、前年度と比較してスコアが素晴らしく改善した。理由は何か。

【武藤学校長】

評価基準が明確になったことによるものである。自己点検自己評価の評価基準は制度上定められており、本来、基準をクリアすれば評価は最高値の4になる。しかし昨年度までは当校教職員は高い完成度を求めすぎていた。

【風間委員】

評価がほぼ満点になってしまうと今後の課題が見えなくなってしまうか心配である。

【武藤学校長】

この自己点検自己評価の基準は、十分クリアできていると考えている。

【渡辺委員】

「基準をクリアすれば良いだけ」と誘導され、評価基準が緩くなってはいないか。

【武藤学校長】

今まで基準が厳しすぎたところがあり、課題のポイントがずれてしまうところはあったと思う。

【五十嵐副学校長】

例えば「学校経営が安定しているか」という項目では、基準は「借金がなければよい」という単純なものであり、評価は4段階の4、満点となる。この評価基準に「将来的な経営安定をしているか」と考えると評価が3や2になることもある。

評価基準は単純なものには是正されたと考えている。

【武藤学校長】

理学療法、作業療法分野では、第三者評価を行う機関がある。看護分野にはまだないが、設立を検討しているという情報もある。

【渡辺委員】

資料P4、明日の厚看を考えるアンケートについてである。

学生生活に関する相談は、1年生から2年生に上がると、「そう思わない」傾向の回答が増えている。学生が自ら進んで相談しに行くのはむしろかしくなったと感じる。

【杉山委員】

2年生であるが、チューター面接が1カ月に1回か2回あるが、感覚的に少ないと捉えている。

【渡辺委員】

先生側から声をかけられるのを待つのも良いが、学生側から声をかけるのはどうか。教員側はそれでもよいか。

【島田学科長】

いつでも相談に来てほしい。そしてそのことを学生に周知することが必要と思う。しかし、自分から声をかけることが苦手な学生も多い。

【五十嵐副学校長】

教員室は、臨地実習等で教員が不在のことが多い。1年生は相談したいときに教員がいないことは可哀想な面もある。

【柚原委員】

私の娘は自分から積極的に相談できるタイプであるが、やはり話をきいてくれる先生からのアプローチは必要だと思う。

【廣田委員】

私は厚看の保護者会でチューター面接を希望し、受けていただいた。高等学校はこまめに先生と面接があるが、専門学校は面接のないところが多いなか、貴重な面接であったと感じている。

【武藤学校長】

学生は、自ら相談する姿勢を作り、その一方で教員からアプローチする体制を作る。両面ともに必要であると考えます。

【郡山委員】

職場では自ら相談したいとアピールしないと、上司に報告したり、同僚とも相談しなければ悩みを理解してもらえない。これは学生のうちから身につけておくことが必要と思う。

【佐藤委員】

当院でも自分から相談できない新人職員は多い。入職して5月くらいから表情が暗くな

ってしまう。(上司側から)意図的に声をかけて、相談しやすい体制を作ることも必要と思う。

【渡辺委員】

コロナ感染流行前は職場内で一緒に食事にいったりできたが、感染流行後は、積極的に食事に行っていないよとは言えなくなった。業務時間のなかだけでは、自分が悩んでいることは言い出しにくい。食事に1対1で出かけたりできる環境があれば相談しやすい。友達同士なら話せることは多い。

学生さんには就職したあとにチームで発言できるようになってほしいと願う。

【佐藤委員】

I C Tの課題提出についてである。課題が期限ギリギリに提出する学生は多いと思うが、提出時に集中してしまうため、回線が込み合いうまくできないことはないのか。

【杉山委員】

送信の作業が分からなくて戸惑うことはあるが、回線が込み合って送信できないことはなかった。

【渡辺委員】

I C Tによる課題取り組みでは、国家試験対策の部分も見ることができるのは良いと思う。学生の利用率を拾うことはできるのか。学生が閲覧する部分の偏りはあるのか。

当院が利用している「eラーニング」では、偏りがある。

【島田学科長】

利用率はわからないが、閲覧のバラつきはあると思う。2週間程度で国家試験対策を終える学生もいれば、進まない学生もいる。各学年の国家試験担当教員が学生各々の目標値に達するよう支援している。

【渡辺委員】

例えば脳疾患の分野を現場実習しているときに、先ほどI C T教育の説明にあった「脳」の説明動画をiPadで見たりするようなことはあるのか。

【杉山委員】

私はその場で動画を見るのではなく、事前に動画を見て予習している。2年生になりようやく活用できるようになってきたと感じている。

【渡辺委員】

国家試験合格に向けて、しっかり活用して勉強してほしい。そして就職したあとも知識と実践に活かしてほしい。

以上